

領収書とレシート

皆様お馴染みの「領収書」ですが、その一般的な仕様はノーカーボン紙やPPC用紙よりもやや厚手の上質紙に必要事項を印刷したものが多くあります。弊社で取り扱いのある山櫻からは「R-〇〇やRC-〇〇」の品名で約50種類、文房具店でよく見かけるKOKUYOからは「ウケ-〇〇」の品名でやはり40種類以上が市販されています。

スーパーやコンビニ、また一般の小売店でもお馴染みの「レシート」は、レジから出力される感熱紙(サーマルロール紙)が大半で、原紙の表面に熱を加えることで発色する加工が施されています。

税法や消費税法上はどちらも帳簿書類の「書類」や「課税資産の譲渡を行った者が作成する書類」にあたり、記載要件には「書類作成者(店名・会社名)」「年月日」「商品やサービスの内容」「金額」「買い手(宛名)」がありますが、領収書とレシートの区別はないそうです。

最後にレシートの注意点を二つ挙げさせていただきます。①サーマルタイプのレシートは空気や光の影響で文字が消えてしまうので保存に注意する。②感熱紙タイプのレシートはリサイクル不可の禁忌品なので「保存」と「リサイクル」に注意する。

その解決法が警視庁のTwitterにツイートされていたのでご紹介します。

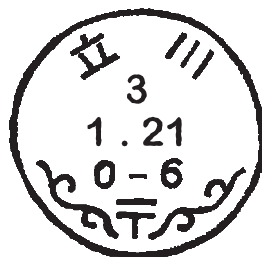
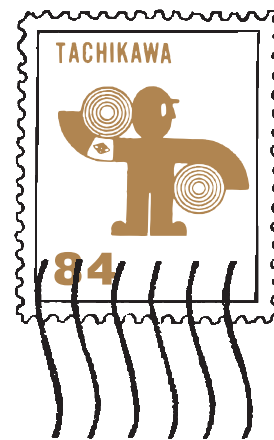
①マスクの紐の片方に輪ゴムを繫げる。
②余った輪ゴムの先をもう一方の紐に片結びをする。
こうすることによりマスクは耳に掛けるのではなく、後頭部に掛ける形になるため、耳へかかる負担が軽減されます。

長引くコロナ禍、「with コロナ」とも「新生活様式」ともいわれる日々の暮らしですが、色々工夫をしてコロナからくるストレスとも戦っていきたいと思います。

を超える売り場面積を占めるまでになりました。

カップヌードルの発売当時、袋麺の実売価格が25円に対し、カップヌードルは100円と高額だったものの、火も調理器具も不要という利便性から、警察・消防・自衛隊、病院など夜勤を伴う職場でまず火が点き、東京銀座の歩行者天国での宣伝販売では、なんと1日で2万食が売り切れたというエピソードも残っています。

余談ですが、昭和47年の連合赤軍による「あさま山荘事件」事件では、日清食品は警視庁の機動隊にカップヌードルを供給しており、「あさま山荘事件」に動員された機動隊が、極寒の雪の中銃撃戦の合間に、モクモクと湯気が立ち上がるカップヌードルを食べる機動隊の姿がテレビ中継で放送されたということです。



雷鳥コート
4/6判 73kg
を使用しています。



発行/株式会社 立川紙業 〒190-0023 立川市柴崎町2-7-6 / TEL: 042-527-6111(代)
FAX: 042-528-0080 / HP: www.kami.jp / MAIL: tp@kami.jp



新年のご挨拶を申し上げます

代表取締役社長 橋詰 亨



あけましておめでとうございます。

昨年はお得意様はじめ、お取引のある皆様には、いろいろとお引き立てやご指導を賜り厚く御礼申し上げます。

また日頃はT P通信をご愛読いただきありがとうございます。お蔭様で創刊以来474号(39年5ヶ月)まで参りましたが、これも皆様のご支援の賜物と感謝しております。

昨年末の日経平均株価の終値は2万7568円と、バブル崩壊直後の90年8月以来の水準に達しました。けん引役にはデジタル脱炭素に関連した銘柄が多く、コロナ後の回復を見越した業績と余りにも乖離があります。

紙パ業界のコロナによる影響は、各種イベントの中止により、メーカー・代理店・卸商共に商業印刷用の品種を中心に取扱っている各社は大幅な売り上げ減となりました。一方で、コロナ禍による市場の変化を見越し、従来の品種からいち早くマスク用不織布や紙タオル等の衛生用紙、また段ボール等に生産シフトしたメーカーは利益を出しています。

これからの時代は株価に表れているように、脱炭素・SDGs(持続可能な開発目標)に取り組まないことは企業の▲評価になる時代に来ていると思います。国内紙パメーカーで使用されている原料の64%は古紙、36%は木材です。その木材も計画的に植林<植林→保育→収穫→再植林>された木材や製材後の残材・間伐材など、他の原料にならなければ

燃やされるか廃棄されるものがほとんどです。

海洋投棄されたストローが貴重なウミガメの鼻に刺さった映像は衝撃的でした。ご承知のように、プラスチックは土壌中や海洋中では分解されません。紙の原料となるセルロース(繊維)は天然由来の物質であり、土壌や海洋に流失したとしても分解され、環境や生物に対して影響の少ない素材です。また新たな素材として注目のセルロースナノファイバー(CNF)は木材繊維(パルプ)を1μの数百分の1以下のナノオーダーにまで高度にナノ化(微細化)した世界最先端のバイオマス素材です。強度は鉄の5倍、重量は5分の1と軽く、熱にも強く匂いも通しにくいという特性に加え、リサイクルが可能で原料が木であるため枯渇しません。

紙パ業界は、昨今のデジタル化の波に飲み込まれてしまうとみる向きもありますが、SDGsの観点から考えても今後も必要不可欠な素晴らしい素材を扱っている業界だと断言できます。しかしそのユーザーであるお客様を取り巻く昨今の環境が、確かに厳しい事は重々承知しております。どんなことでも構いません!ご相談下さい!共に手を携えていきたいと思っています。

地元に着した紙卸商として、お客様により一層のお役立ちができるよう社員一同努めて参ります。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。(日本製紙連合会資料参照)



マスクの紐にひと工夫

長引くコロナ禍で手放せないマスク、しかし何かと不便な点もあります。例えば「耳が痛くなる」こと、これはおそらくほとんどの方が一度や二度は感じたことと思います。



即席麺



日本の即席麺の始まりは、日清食品の創業者の安藤百福(呉百福)が開発した「チキンラーメン」、そしてカップ麺は、「カップヌードル」だそうです。

新発売以来売上は伸びる一方で、続々と後発商品も登場、その後別包スープ、味噌や塩味また廉価商品などが売り出され、即席麺はすっかりお馴染みの食品となりました。さらに「カップヌードル」の登場により、即席麺は第二の黄金期に入ります。サンヨー食品・明星食品・エースコックなどもこれに続き、スーパーやコンビニの売り場をのぞいても、今や袋入りの即席麺

新年のご挨拶



専務取締役経理部長 小泉 周策

あけましておめでとうございます。旧年中はお得意先様をはじめメーカー、仕入先、金融機関、出入り業者の皆様にはたいへんお世話になりありがとうございました。

すでに皆様もご承知の“新型コロナウイルス”は、国・地域・業種・年代を問わず、地球規模で猛威を振るい続け、いまだ収束の兆しさえ見えません。この影響は弊社も例外ではなく、苦難の状況下で迎える新年となりました。しかし弊社に及ぶのは、あくまでも新型コロナウイルスの“影響”です。

一方このような困難の中、医療・保健・福祉や行政の機関や施設、またそこでこのウイルスや感染者と日々対峙している方は、文字通り命がけの日々を送られており、心より敬意を表させていただきます。そんな皆様のお手伝いは何もできませんが、せめて感染者や患者としてお手を煩わせることの無いよう、引き続き感染予防に気を遣いたいと思います。

時節柄どちら様も体調管理には十分ご注意ください。本年も変わらずごひいきのほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



取締役営業部長 山川 正徳

令和3年の年頭にあたり、皆様に謹んで新年のお慶びを申し上げます。お得意様をはじめ、メーカー、仕入先、金融機関、出入り業者の皆様には、日頃よりたいへんお世話になりありがとうございました。

昨年を振り返りますと、やはり新型コロナウイルス感染症に尽きると言えます。ウイルス感染が世界中に拡がり多くの方が亡くなりました。こうしている今も世界各国で大勢の方が病床の上でウイルスに苦しんでいます。そしてその方々を救うために多くの医師や看護スタッフをはじめとする医療機関等に従事される方が、昼夜を問わず命がけの毎日を送ってくださっています。その全ての方にエールを、そして感謝を申し上げたいと思います。

この感染拡大により、人類の生活様式は激変し、経済・スポーツ・文化・各種イベントが中止や延期を余儀なくされるなど、かつて経験したことのない1年でした。しかもその感染拡大は収束の兆しすら見せず、今年に入っても続いています。引き続き感染予防には最大限の注意を払っていかねばなりません。

コロナ禍の中、巣ごもりで通販の利用が増え、パッケージや段ボール需要が戻りつつあります。しかし一方ではイベント等の密を生む行事や催しが次々と中止や延期になり、様々な業界にその影響が及んでおります。私ども紙や紙関連業界でも需要の落ち込みは深刻なものとなっております。学校や企業もリモート対応になり、ビジネスフォームやPPCなどの需要も同様です。

これまでごく普通に考えていた我々の環境が、このコロナ禍の影響で急激に変化しつつありますが、この変化にいかに素早く対応できるか、今できる事から考え、行動に移し皆様と共に乗り越えていきたいと思ひます。

本年も皆様へのお役立ちを常に意識して、営業部一丸となり頑張っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

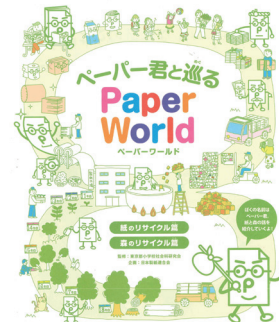
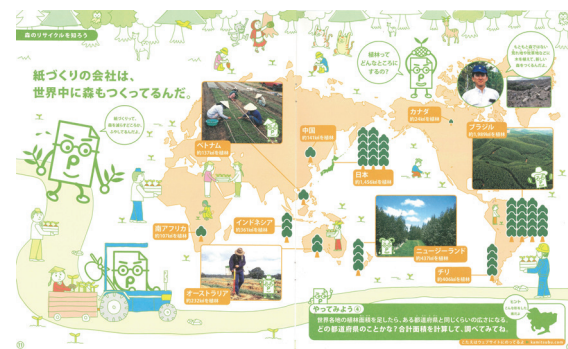
特別訪問記

ペーパー君と巡る「Paper World」の巻 その2

《森のリサイクル編》

前回に続き今回の特別訪問記は、東京都小学校社会化研究会の監修、日本製紙連合の企画によりつくられた小学生向けの副読本『ペーパー君と巡る Paper World』(2019年6月発行)をご紹介します。紙や森のリサイクルが写真やイラストを使い、小学生にもわかりやすく紹介されていて、大人でもなるほど！と感心させられる、知っているようで知らなかったリサイクルの仕組み、今回は《森のリサイクル》です。さあさっそく本題に入りましょう。

使い終わった紙のリサイクルは、もうすっかり日常生活の中で常識となっていますが、実は紙だけでなく紙の原料になる「木材」「森林」のリサイクルにも各製紙メーカーは力を入れています。紙の原料になる木は、伐っても再生できる資源。計画的な植林サイクル、つまり自分たちで木を植えて⇒収穫したら⇒また植えて⇒次の収穫をする。このサイクルによって、同じ森を何度も活用して森を減らさない取り組みを行っています。



製紙メーカーが行っているこの森林のリサイクルのために有している森の面積は、国内にはおよそ1,500km²(実に東京ドームの32,000個分)。国外にも南米の2,400km²を筆頭に、豪州・ニュージーランドの650km²、東南アジア500km²、そのほかカナダ・中国・南アフリカなど全世界で森や木は適切な管理のもとで大切に育てられて《森のリサイクル》が行われています。

この取り組みは、昨今の温暖化対策にも役立っていて、現地での雇用の確保なども含めると一石二鳥にも三鳥にも、今や製紙メーカーの仕事の大きな柱のひとつになっています。

残念なことに、世の中にはいまだに「森が減るのは紙づくりのせい!」との誤解があります。無計画な森林伐採や焼き畑が世界の森を減らしてしまっているのです。(つづく)

